

自由律俳句

おおくさ編集室選

楽しみ探しもいろいろ好きな演歌口ずさむ 茶屋 木山 輝子  
 採り残した胡瓜の惱ましい太さ 茶屋 藤原 寿郎  
 多くなる片仮名言葉高齢者には苦手です 神戸上 柴田 篤子  
 虫の声と共にそつと秋がやって来た 茶屋 長谷川由美子  
 風の中のコスモス私を見ている 印賀 久代 幹子  
 歩道に転がる青栗のさやさやともう秋 茶屋 小林 道子  
 墓参り父母若くして逝き七十五年も過ぎた 茶屋 岸本 治枝  
 亡夫に供えビール一杯にはる酔う虫の音 生山 渡辺 圭子  
 涼しくなった朝の庭小さな蝶が纏れ合う 茶屋 木山 操子

俳句

駄句駄句会編集室

盆飾り無事に終了とメール来る 神戸上 笹間 玲子  
 八十代まだ若いよと生身魂 宮内 田辺登志美  
 秋朝やゆるりとかしつ纏れ髪 宮内 舟越 裕子  
 蕎麦の花歩き仲間の大手振 矢戸 和田 淑子  
 秋灯し三日まとめて書く日記 豊栄 花倉美佐子  
 コロナコロナ白肅の日々や秋近し 宮内 木村萬佐子

短歌

沈み行く鬼林の山に横たへて 下石見 浅川 三郎  
 満る月影ばかりと浮ぶ  
 生まれるは難と苦に満つ路なれど 湯河 山田 司郎  
 乗り切る術は心経に在り  
 若葉から紅葉となりて舞う木の葉 我を重ねて切なさを飲む  
 厳な鎮守の祭りお芽出度い 阿毘縁 木村 民子  
 五穀豊穰感謝の祈り  
 あか蜻蛉短い命懸命に 宇宙を翔んで子孫繋ぐ

編集後記

先月号では日南町で働き始めて感じたこと1つ目として、町内に出向きお話を伺うことが何よりも勉強になるというお話をさせていたいただきました。2つ目を感じていることとして、時代は変化しており新たに考え続けなければならぬということとです。当たり前のこともかもしれませんが、人口減少、新型コロナウイルス感染症等々今まで通りにならないことの連続で、今何が必要で何をすべきかを常に考えていかなければと思っております。ですが、そう簡単なものではなく毎日難しさを感じています。そして皆様に助けられなにかやっつけていくことができます。考えることを諦めず頑張っていきたいと思う初秋でした。

問 役場企画課 82-11115

お詫び 広報にちなんお詫びと訂正

広報にちなん10月号広報文芸におきまして、笹間玲子さん、和田淑子さんの俳句と山田司郎さんの短歌に誤りがありました。お詫びして訂正します。  
 誤 七夕や友と交した折り交 ↓ 正 七夕や友と交した折り文  
 誤 ひと目咲き惜し気なる散る沙羅の庭 ↓ 正 ひと目咲き惜し気なく散る沙羅の庭  
 誤 釈迦の説真実の敵 ↓ 正 釈迦の説真実の故

「手話教室のお知らせ」

手の動きや顔の表情で意志を伝える手話。鳥取県では手話言語条例制定後、手話を見かける機会が増えています。  
 日南町手話サークルでは、1ヶ月に2回のペースで基本的な手話の学習会を開催しています。  
 手話に興味をお持ちの方は、一緒に手話を学んでみませんか。

11月の日程

11月1日(日)、11月15日(日) 14時~15時30分  
 場所 日南町文化センター

【お問い合わせ先】

石田由香里(080030529933)  
 浅野 博美(090097341887)

「体育」



両手の握りこぶしを体の前におき、握りこぶしを胸につける  
 この動作を2~3回繰り返す

「理科」



両方ともピーカーを持つ形で右手のピーカーから左手のピーカーに移す動作



逆に左手のピーカーから右手のピーカーに移す動作

「手話表現には、色々な表現方法があります。」

